

### 3 ゆうゆうのもり幼保園（神奈川県横浜市）



学級編成	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
2号,3号	6名	10名	11名	11名	11名	11名	60名
1号				50名	50名	50名	150名

**保育方針** (1)生き生きした子ども 子ども自身が生きる力を持つ子ども

(2)思いやりのある子ども 人の気持ちや痛みを感じる力を持つ子ども

**園舎の特色**・・・保育園・幼稚園の一体化施設

(1)子どもの遊び、動きを見据えた園の設計

(2)子どもにも大人にも開放的なナースステーション

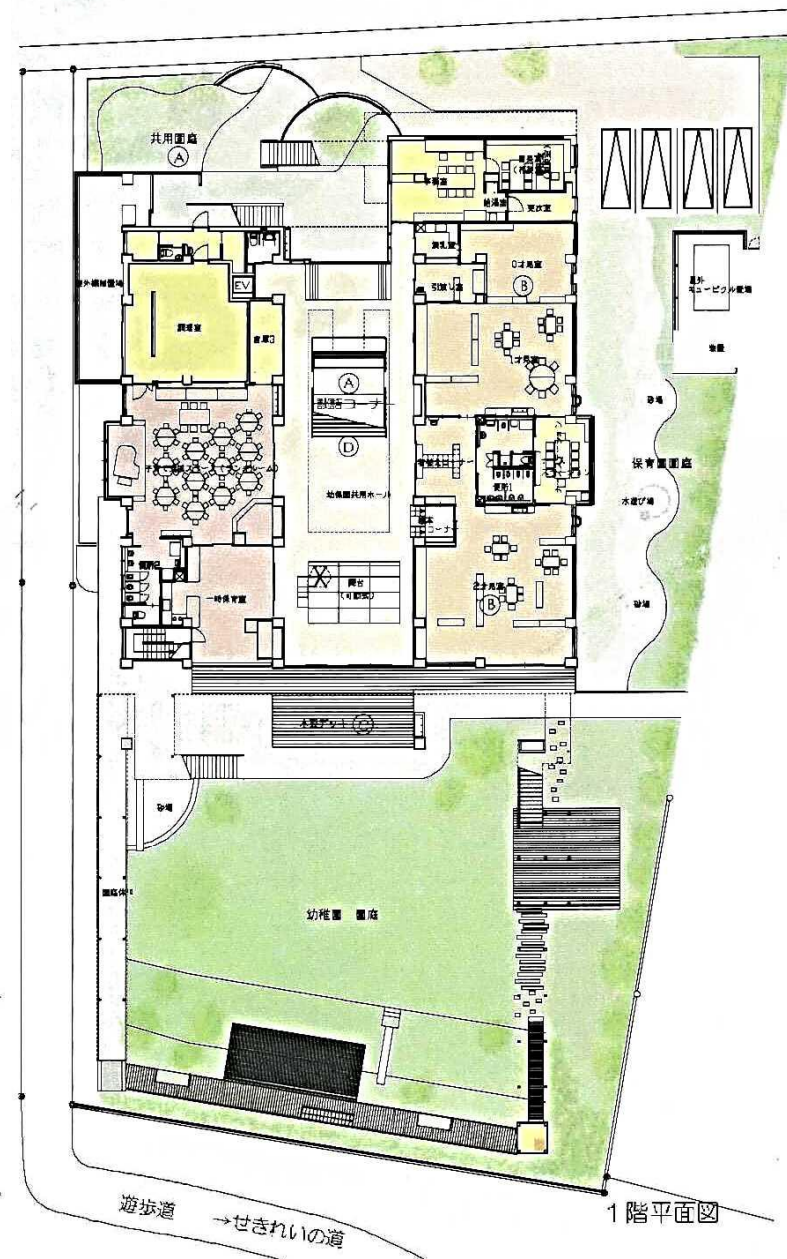
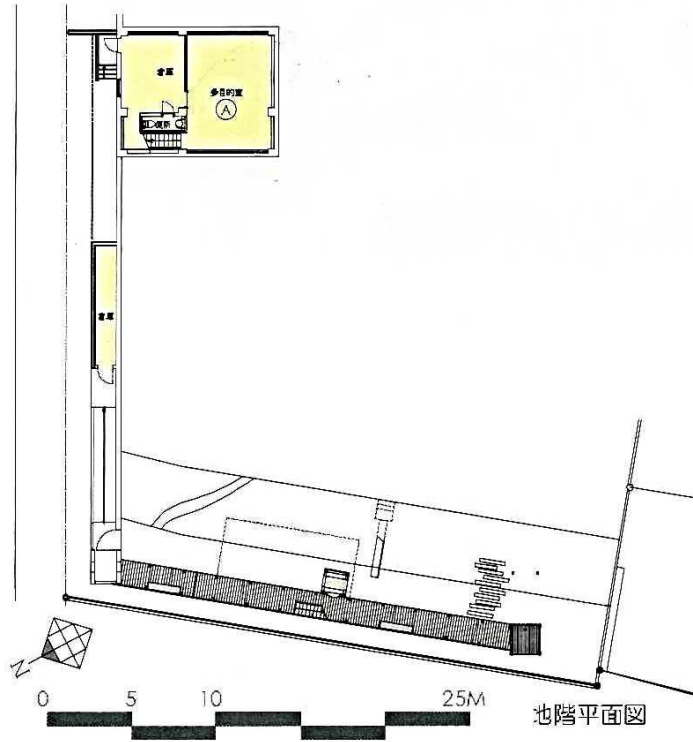
(3)長時間子どもがいても居心地がいい場

(4)保護者もほっとできる空間、交流ができるスペース

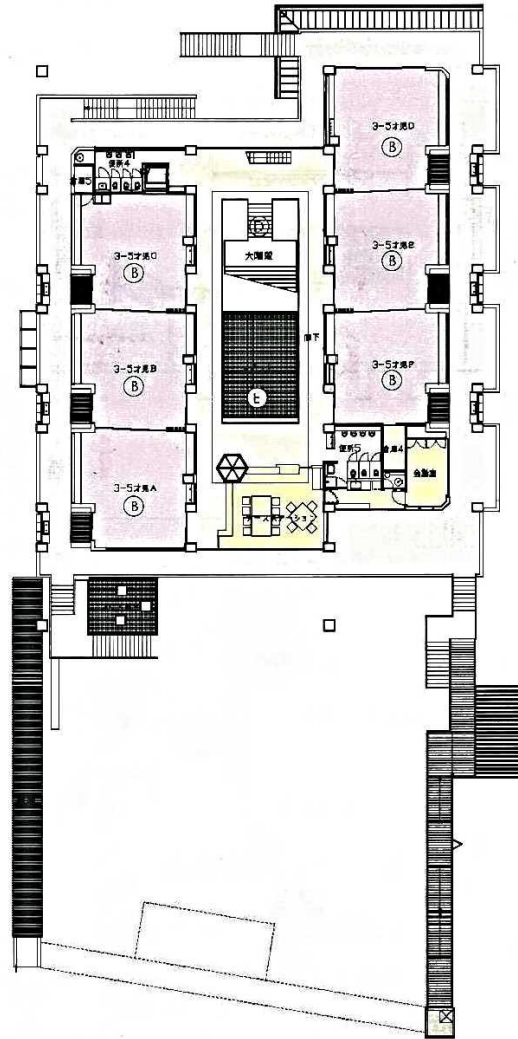
(5)地域に開かれた園舎の設計

# 施設概要 (B1-1F)

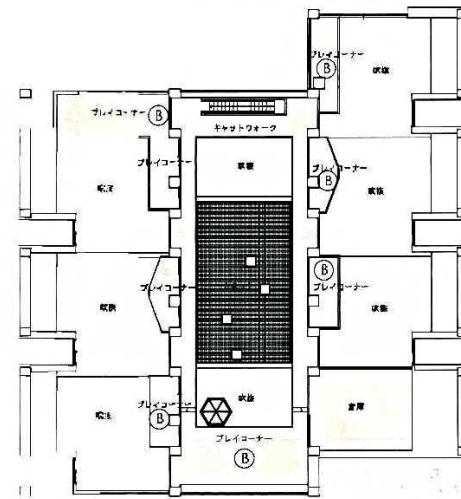
平成16年築  
RC造2階建 延べ1540.45m<sup>2</sup>



# 施設概要 (2F-CW)



2階平面図



キャットウォーク階平面図

# 内 部



▲大階段を有する共用ホール



▲ホールの上に広がる大ネット



▲大ネットで遊ぶ子ども



▲クラスルームの上部にあるプレイコーナー（キャットウォーク）



▲クラスルーム



▲プレイコーナーにつながる子どもサイズの扉

# 内部



▲室内にあるアスレチック



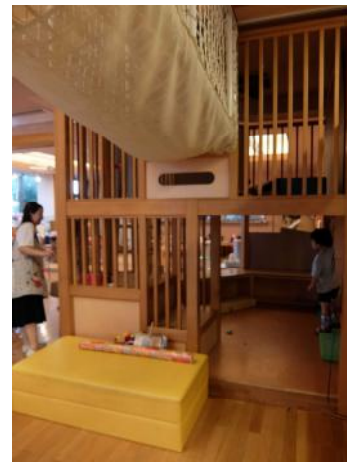
▲中がよく見える職員室



▲ランチルーム



▲保護者が集まれる地下の多目的室



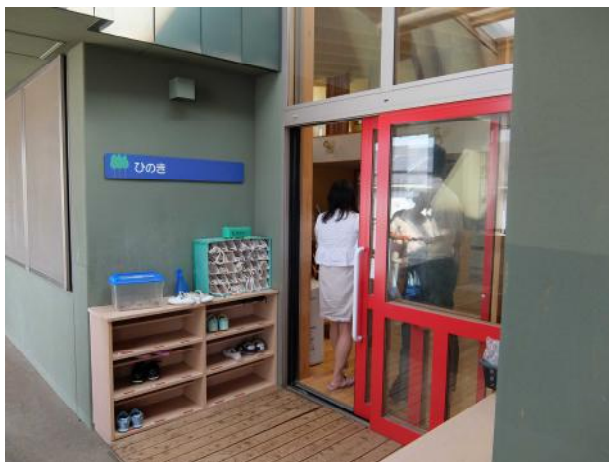
▲階段下などに子どもに合わせた多様なスペースを配置



# 外部・園庭



▲各教室に直接アクセスする半屋外の廊下



▲教室入り口



▲園庭に向けて広がる大きな木製デッキ



▲外部にもネットをめぐらせている



▲建物から直接外の遊具につながる



▲園庭

### 3 港北幼稚園（神奈川県横浜市）



#### 学級編成

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
-	-	-	2クラス 76名	2クラス 89名	2クラス 95名	6クラス 260名

- 保育方針**
- (1) 生き生きした子ども 子ども自身が生きる力を持つ子ども
  - (2) 思いやりのある子ども 人の気持ちや痛みを感じる力を持つ子ども

#### 主な特徴

- ・ 家庭との連携（保護者による活動 ○父母の会、○サークル活動）
- ・ 職員の体制（担任以外にもフリーの保育者）
- ・ 「預かるだけの保育」にしない子どもの生活を見通した保育  
（通常保育時間外の保育は姉妹園のゆうゆうのもり幼保園と交流）

# 施設概要 (1F)

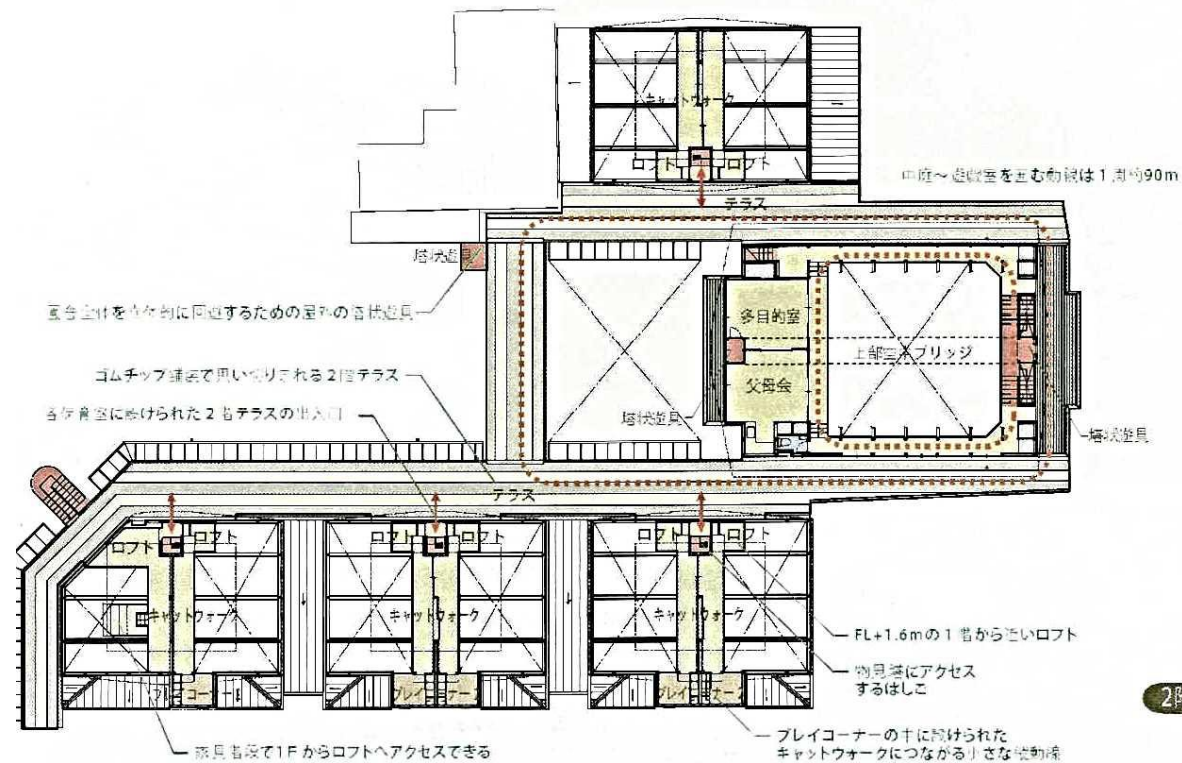
増築棟 平成26年築  
木造2階建 延床面積993.63㎡





# 施設概要 (2F)

渡り廊下で各室がつながる



# 外部



▲増築棟



▲既存の園舎



▲サークル活動によって作られた  
ログハウス



▲高低差のある園庭



▲遊具



▲保護者手製の水路

# 内 部



▲テラスによって各室がつながる



▲保育室の上部にあるロフト



▲保育室内ロフト部



▲半屋外の広々とした渡り廊下



▲保育室内にあるデン



▲保育室

# 内部



▲木架構の遊戯室



▲中庭



▲遊戯室から中庭を望む



▲絵本室



▲保護者も集まれる多目的室



▲渡り廊下のたまり場となる  
ベンチ・手洗い

## 委員コメント(基礎情報)

- ・預かり保育(幼稚園)・延長保育(保育所)という大人からの見方をした言葉を使わずに、「風の時間」というような、子どもの経験を基本にした命名がされている。(両方)
- ・保護者が子どもとの関係に悩むとき、子ども連れで「保育参加」することができる。これは、単に言葉での「育児相談」よりは、体験を通して実際の多様な子どもの姿や保育者のかかわりを見て、保護者が自らの子ども理解やかかわり方を考えることが出来そうである。(ゆうゆうのもり)
- ・小学生ボランティアの受け入れは、他では見られないユニークな試みだと思う。卒園式後にきちんと説明をして、数名ずつ受け入れている。学童保育ではない。小学生にも、また乳幼児にも縦のつながりの中で育つ時空間が用意されている。現代社会では、子どもが育つ3間(時間、空間、仲間)がなくなったと言われているが、ここには、それが存在する。(ゆうゆうのもり)
- ・4, 5歳は午睡がないそうだが、保育所でも無理に寝かせる必要はないという考え方が広がりつつある。帰宅してからの就寝時間を考えたら、早寝・早起きで、しかも保護者も夜の時間が有効に使えるので、親子共に助かるのではないか。(ゆうゆうのもり)
- ・「遊び」を大切にして、子どもたちが「遊びたくなる」ような「環境を通しての教育」が実践されていると思われる。(回遊空間:両方、大ネット:ゆうゆうのもり)
- ・保護者のサークルがいくつもあって、園の教育にも貢献している。(港北幼稚園)
- ・働く保護者も参加しやすいように保護者会用の部屋が、例えば土曜日でも使用できるような、外部からの直接の出入り口がある。(ゆうゆうのもり)
- ・支援の必要な子どもへの配慮が、結果として他の子どもたちも交えて遊べる場となっている(トランポリン:港北、小さな部屋:両方)

## 委員コメント(基礎情報)

- ・平成17年 横浜市の子育て支援の重点施策(3カ年計画)により幼保一体化施設としてゆうゆうのもり幼保園を学校施設用地(幼稚園)の無償貸与を受けて新築整備した施設である。
- ・平成26年4月より港北幼稚園は旧園舎を一部残して(3歳児の保育室)、4. 5歳児の保育室と遊戯室および預かり保育の保育室を平屋にて新築整備した。
- ・傾斜地を利用して設計者仙田満氏の設計理念(子どもの施設が街のモニュメントとなる)と設置者の教育方針(子どもが自発的・主体的に自律性をもってあそぶなかで成長・発達する)を具現化するために園庭と園舎を一体化して整備した。
- ・学園内の姉妹園(施設型給付を受ける港北幼稚園)との距離が約500mということもあり、機能分担を図りながら、一時預かり保育などを実施している。
- ・ゆうゆうの森 H17年開園 設計 環境デザイン研究所  
中心の吹き抜けに巨大ネットの縦横の遊環構造 横浜で最初の幼保一体施設
- ・港北幼稚園 昭和51年開園 平成25年改築新園舎 デッキでつなげる遊環構造
- ・方針:主体的に生きる力を身につける、子どもどうしの関係で人の気持ちを感じとる思いやり
- ・9時~14時 光の時間 14時-17時 風の時間
- ・預かり保育 30名 おはよう保育7:30-8:45 めくもり保育 17:00-18:30  
両園で時間外保育を単に預かるだけではなく、多様な体験メニュー

## 委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・園舎内においても、いつもはあまりしないような「屈む、這う、伸ばす、転がる、ゆする」などの身体を多様に動かす運動が自然と出来るような構造、遊具、ネットの設置がある(特にゆうゆうのもり) また、上から見下ろすなどの普段は出来ない空間認識が可能になるようなキャットウォーク(両方)、空中廊下(港北)がある。
- ・半屋外のテラスが広く取られており、室内外の見通しもよく子どもたちの遊ぶスペースとして有効である。
- ・ホールの作りが従来とは異なり、2階への大階段を客席とする様な開かれた広場であり、発表会や式典用だけでなく、普段の遊び場としてもいつでも使える生きた空間となっている。(ゆうゆうのもり)
- ・二つの保育室の間に共有する教材室があるが、これは子どもに応じての環境の再構成がしやすいと思う(港北)
- ・園庭は土で木陰もあり、水を使って泥や砂遊びを楽しめる。これは、今の時代の子育て環境で整えるのは難しく、幼稚園等の施設でそれが出来るような環境を用意することが使命と言える。(両方)
- ・身近な自然に直接かかわることができるビオトープがあることは、幼児教育施設においては、その地域や園の実情に合わせて、ぜひとも備えたい環境である。(港北)
- ・室内の遊びと園庭をつなぐテラスやウッドデッキの存在は、遊びや友達とのかかわりの豊かさを保証する。
- ・各学級の外側に回遊式のテラスと靴箱があり、基本的に子どもたちはそこで登降園をする。降園時に長時間保育の子が短時間保育の子を迎える保護者を見なくてよいような配慮ができています。
- ・こども園として、働く保護者が土日などに自由に入出りできる地下の部屋があるということは、保護者と園が協力していくための、大きな素地となっていると思われる。(ゆうゆうのもり)

## 委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・どちらの園も、1階も2階も、渡り廊下やテラスが回遊できる構造になっており、保育室同士が様々な動線で行き来できるようになっている。特に、はしご、らせん状の階段、ネット、ネットのトンネルなどがあり、自然な形で子どもの多様な動きを引き出すことにつながっている。
- ・傾斜地をいかしながら、園舎と園庭を一体化して有機的な空間構成となっている。保育室とテラス、回廊を屋外遊具と接続し幼児の動線を広範囲にとっている。また、遊戯室（ステージ）と園庭を接面にした配置もユニークであり屋内外の連絡を有効にしている。
- ・両園舎共に園内空間を立体的につなぐ装置（隠し小部屋や通路を兼ねた立体遊具）を縦横に設置し、園舎全体が有機的な遊具となるデザインとなっている。
- ・園児を中心に保育に参加する人々が互いのスペースや様子を視認できる空間構成と工夫がなされ、園舎園庭ともに存在する多くの死角をカバーしている。
- ・子どもが自然に身体全体を駆使することができ、危険回避能力を涵養できる施設といえる。
- ・保育室間に教材置き場や保育者の作業スペースが有効に配置されている。
- ・ゆうゆうのもり幼保園では外部の遊歩道から地階の多目的室（通常はPTA会室）に、休日でも入室できる管理となっている他、小学生の保育参加や保護者の保育参加を日常実施している。
- ・港北幼稚園では保護者の自家用車で送迎や行事参加のため、近隣に100台駐車可能な駐車スペースを確保している。
- ・両施設共に生活に根ざしたあそびの実現が、幼児の生涯にわたる成長・発達に重要であるというメッセージを発信する意味性も兼ね備えている。



## 委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・ゆうゆう 特徴は中央の吹き抜けの上部の巨大ネット。建物自体も巨大遊具のように、また園庭に遊具が伸びて、高低差を使った身体的運動の高い遊び場につながる。危険なことは自分で判断できる力を身につける。
- ・港北 特徴は2階レベルの回廊。クラスからテラスそして外への連続性、ホールから中庭への連続性が保たれている。ウッドデッキの中庭はホールの延長の屋外ホールで多様な催しに対応可能。
- ・両園とも、子どもの居場所となる小さな押入れ的空間を設けている
- ・保護者が待つだけでなく、子どもを見てくれる。保護者のサークル的な活動が起こる。お母さんたちがつながる。おやじの会が立ち上がる。そのように幼稚園は人がつながる場
- ・卒園生の小学生ボランティア
- ・障害のある子 港北 19人、ゆうゆうの森 4、5名 一緒に生活 インクルーシブに 年長が年少の子の面倒を見る
- ・両園で通園のバスを運営 三人の運転手

## 4 せんりひじり幼稚園（大阪府豊中市）



学級編成

※確認中

職員

※確認中

教育目標

「わたし」を大切に思う気持ち。

「みんな」を大切に思う気持ち。

# 施設概要

昭和42年、平成17・27・29年築  
RC造3階建他 延べ3,578㎡



# 外部・園庭



▲屋上庭園（きたかん3階）



▲雨天時にも遊べる園庭前のスペース



▲園庭の人工芝部分



▲木製遊具



▲建物の外廊下と階段、中庭が有機的に結び付いている。



▲ビオトープ

# 内部



▲保育室①



▲保育室②



▲読書スペース兼お昼寝スペース



▲廊下に面して設けられた  
機材保管スペース



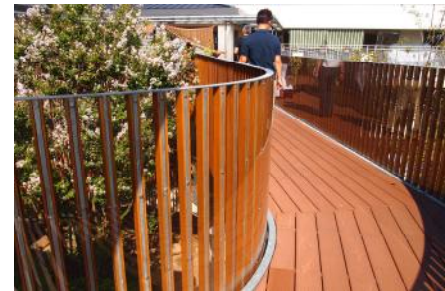
▲トイレ



▲木材がふんだんに使われた  
多目的ホール



▲体育館



▲外部廊下も周遊性をもたせている

## 委員コメント(基礎情報)

- ・併設の保育園48人、幼稚園430人の大きな園である。幼児の生活を考えると150人位がいいかと思うが、近隣の人口から、この数でも入園は抽選である。
- ・しかし、近隣からの入園を可能にするため、通園バスは使わず、送り迎えで、かなり歩いて登園する子どもも多く、自然と体力向上に役立っているそうである。
- ・昔はなかった怪我が起こるようになり、近隣社会を見ると、高層マンションが増えて、段差を超える経験が少ないのではないかという事に気づいたそうである。3歳までの家庭での生活の中で、語彙数も体力も、食生活なども変わってきているとの実感があるようだった。3歳までの生活を支えないと、という危機感がある。入園前に小さな怪我が身を守るようになるとはっきり言うそうである。自園調理である。
- ・認定こども園になると保育者の働き方が難しい。土曜を含めたシフト制だと、担任がいない時間や曜日が出来てしまう。
- ・私立園としての理念をしっかりと伝えるための「コンセプトブック」が入園案内とは別に作られている。
- ・1967年設立の本館(2005年頃改築保育室面積増)、2005年頃子育て支援(未満児保育と預かり保育)のために新築整備した新館を2015年に保育所1、2歳児保育室と幼稚園の保育室を増築する。2017年ホールと体育館を新築整備する。
- ・教育方針、1日の流れなど参考資料。2015年に幼保連携型認定こども園に移行し園児480名の大規模園である。
- ・豊中市からの要請で、幼稚園の補助活動として行なっていた未満児保育を認可保育所化する以前から、地域や保護者の子育て支援の取組みを実行しており、相談やカウンセリングを受けられる相談室も整備している。
- ・保護者の保育参加やPTA活動への意識が高く、保護者間の世代間伝承もなされている。

## 委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・園舎・園庭はよく計画され、園庭も広いフラットの部分（本格的なサッカーが出来る、人工芝）とビオトープや植栽に溢れた中庭がある。中庭は2, 3階からも百日紅の花が見える設計になっている。
- ・ホールと体育館は木の香りがする木造で、ホールは横長で私には、珍しい形だった。一学年ほどが入るという事で、やはり400人を超える園児数だと全体が一堂に会するという事は考えなくてもよいのかと思った。小学校以上だと何百人いても、全学年が入ることを考えるが、幼児の場合はそれでは集団の規模が大きすぎて、幼児自身が集団を捉えられないのだと思う。
- ・本館や新しく建てられた北館、ホールなどがうまく一体化して、調和を感じさせる。
- ・一つ一つの保育室が70m<sup>2</sup>ある。子どもの主体性を大事にし、常設のコーナーを作るとそのくらいの面積が必要である。
- ・半屋外空間、回遊空間が効果的に配置されている。
- ・十分な広さを有しサッカーなどの運動ができる人工芝のグラウンドと周囲の幼児の運動機能を育てるハグス社製の固定遊具がある運動場の他、植栽やビオトープを整備した園庭を意図的に配置している。
- ・一室に保育室面積を70m<sup>2</sup>と広くとり、移動式家具を有効に使い環境の構成を柔軟に行なっている。教材の収納にあたっては躯体の厚みを利用した埋め込み式の壁を広く取っている。トイレや水回りには一台式の洗面台を年齢に合わせて工夫して配置している。
- ・敷地内のエントランスにピロティーと中庭を効果的に配置し、保護者の待機場所や懇談スペースを確保している。
- ・幼稚園は全園児が徒歩通園であることから、自転車や自家用車の駐車スペースは広くとられていない。

## 委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・千里ニュータウンに設置された幼稚園で、改築が進む地域の中に所在し、乳幼児は増加傾向にある。従来から通園バスを使用せず付き添いの臨時職員を含めてコース毎の徒歩通園だが、周辺の道路は歩道が整備され歩車分離である環境も確認された。
- ・大規模園であるが、創立時以来の樹木を活かしながら回遊性のある園舎を整備し、合わせて異学年の保育室を隣接して配置するなど、集団のユニット化を図り相互の関係を深める配慮がなされている。
- ・教職員の教育課程の整備やメンター制を採用し近年、5年以下離職ゼロを継続している。



## 5 あけぼの幼稚園 (大阪府豊中市)



学級編成

※確認中

職員

※確認中

教育目標

全ての生活から健全な心身を育てる  
全ての生活からよく考える力を育てる  
全ての生活から愛情と自立心を育てる

# 施設概要



# 外部・園庭



▲園庭を一望できる外廊下



▲3階から園庭を眺める



▲樹木やパラソルなどで景觀に変化をもたせるとともに、適度な日陰が作られていた



▲園庭内には様々な遊具や仕掛けがあり、子供たちが思い思いに遊び込んでいる

# 内部



▲保育室①



▲保育室②



▲保育室③



▲読書スペース



▲フロア中央に配置された  
教員スペース



▲デッドスペースを倉庫  
として活用



▲トイレ



▲体育館

## 委員コメント(基礎情報)

- ・昭29年創立で昭和50年から認可外保育所(現在は認可40名)を併設した幼稚園型認定こども園(285名、一時預かり10名)である。スタッフ70名。入園は抽選。統合保育。
- ・園長の理念が、各種のパンフレットになっている。単なる入園案内でなく、例えば、園舎建築における保育の哲学を語る小冊子などが特徴的である。
- ・給食は7分づき米に魚の和食が中心。水曜日は2号認定の子どもも弁当持参で、園外保育(公園・雑木林)に行く。
- ・通園方法は半径1KMは歩き、それ以外も既存のバス停までは歩いてくる。バス30分4コース。
- ・1954年創立。1989年園舎全面改築。2007年預かり保育棟である「南風亭」新築整備。2009年一部改修工事にて「風の棟」新築整備する。現在本館「光の棟」職員室など改修工事中。
- ・1975年より豊中市独自の制度による幼稚園内保育所開設。2015年幼稚園型認定こども園に移行。教育方針などは参考資料。
- ・幼稚園も一時預かり保育事業により、放課後の保育を実施。
- ・幼稚園に付設された0～2歳児対象の保育園と連携・交流しており、保育園修了後は幼稚園型認定こども園である幼稚園に入園可能な体制を整備している。

## 委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・園庭には、園長作のツリーハウスや保護者の手作り遊具、雨水を利用した井戸、園舎ピロティ部分のアスレチック風遊具で様々な身体の動かしかたを誘発する仕掛けになっている。また、最近隣接地を使えるようになり、ここはフラットな空間で、子どもが思いっきり駆けまわられる場所であった。
- ・H23年に建設された「風の棟」は半屋外空間が広々として、第2の保育室となっている。保護者が室内履きなしで迎えに入ると、雨で濡れていたたりして困るという話もあった。どこの園でも半屋外空間の雨対策は課題であると感じた。
- ・保育室の床は1階がナラ（一番固い）、2階がクルミ（暖かい）、3階がタモ（一番暖かく、クッション性がある。床暖なし）と用途によって使い分けられている。
- ・南楓亭と呼ばれる離れは、部屋自体も高低差があり、子どもが小さな空間で本を読んだりできる隠れ家的なところもあった。
- ・30年前に植樹した樹木が大きく育った園庭を囲み3棟の園舎が整備されており、全ての保育室からツリーハウスの様に眺めることができる。
- ・連なった園舎全体が多層でありながら回遊性を確保し、園庭との有機的なアクセスを可能にしている。
- ・園庭では多様な動きが可能な遊具と井水を豊富に使用しがらのあそびを展開でき、隣接する平面のグラウンドでサッカーなどの球技などの粗大運動を行うことができる。
- ・多様な形状の保育室を移動可能な家具と教材を配置し、幼児の主体的な対象へのかかわりを可能にしている。
- ・通園バスは運行しているが、半径1km以上に居住している場合のみの利用に制限している。保護者の多くは自転車や徒歩で通園しており、駐輪場を確保している。
- ・保護者はエントランスを通り園庭から各保育室へ進み、子どもの送迎を行なっている。降園時は園庭であそぶ子どもの様子を緩やかに見守りながら、保護者同士や保育者との懇親の場としても機能している。